作成日　2022/8/20

第 46 回全関西ミニバスケットボール大会
医務班　活動報告

【報告者】

広島大学大学院　医系科学研究科

スポーツリハビリテーション学研究室

尾上仁志・浦辺幸夫

【はじめに】

この度、令和 4 年 8 月 12-14 日に広島県立総合体育館（グリーンアリーナ）で開催された、第 46 回全関西ミニバスケットボール大会において医務班として活動する機会を得たので報告します。

【大会の概要】

主催：一般社団法人　広島県バスケットボール協会
参加チーム：男子 24 チーム、女子 24 チーム
期日：令和 4 年 8 月 12 日（金）　開会式・予選リーグ
8 月 13 日（土）　順位別リーグ戦
8 月 14 日（日）　順位別リーグ・決勝リーグ・表彰式・閉会式

【参加スタッフ】

広島大学大学院医系科学研究科　スポーツリハビリテーション学研究室
8 月 12 日（金）：田城 翼、堤 省吾、河井美樹、尾上仁志
8 月 13 日（土）：堤 省吾、水田良実、小田さくら、尾上仁志
8 月 14 日（日）：石原萌香、田村裕樹、石田礼乃、尾上仁志

【感染対策】

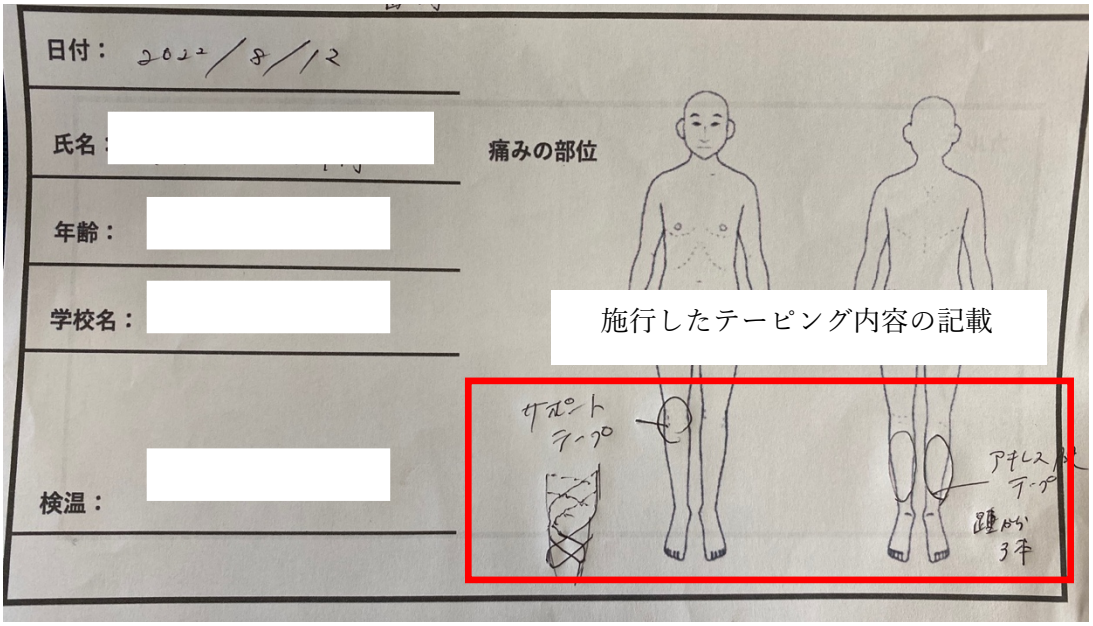
下記感染対策を徹底し、対応した。
・参加スタッフの体調チェック
・医務室内の換気
・対応スタッフのマスクの着用
・3 密の回避
・選手対応ごとに手指消毒、ベッドのアルコール消毒を実施

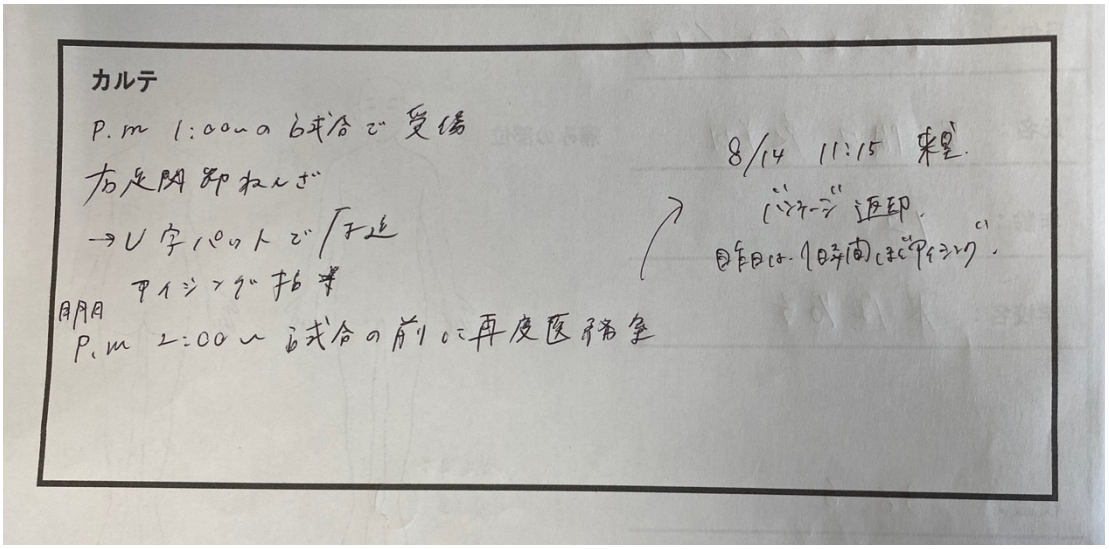
【事前準備】

① 申し送りシートを作成

日程によって対応スタッフが異なるため、個人情報の把握や対応内容を円滑に行えるようカルテを作成し、現病歴や対応内容、翌日も医務室に来室するかなどの情報を円滑に行えるように努めました。

図 1：申し送りシートの記入例



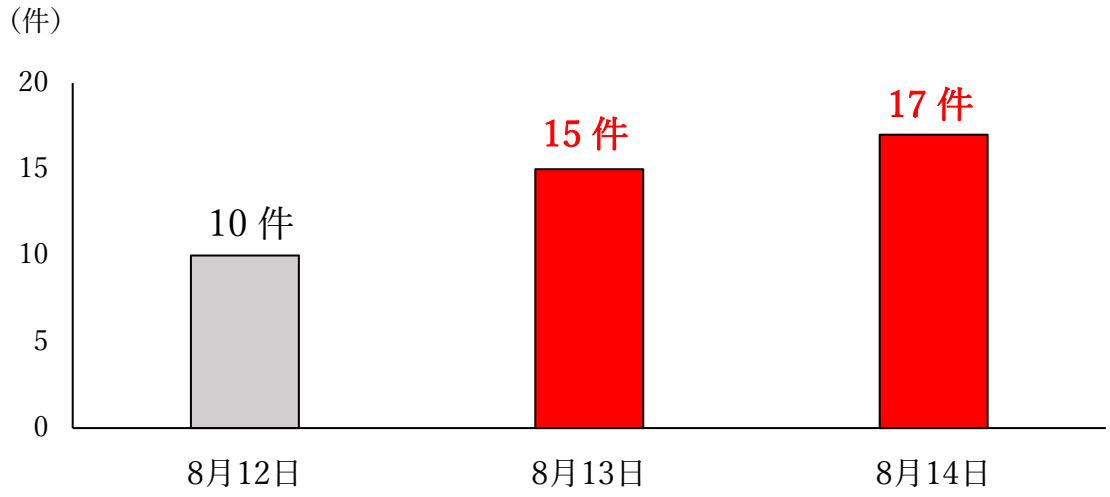


② 応急処置の準備

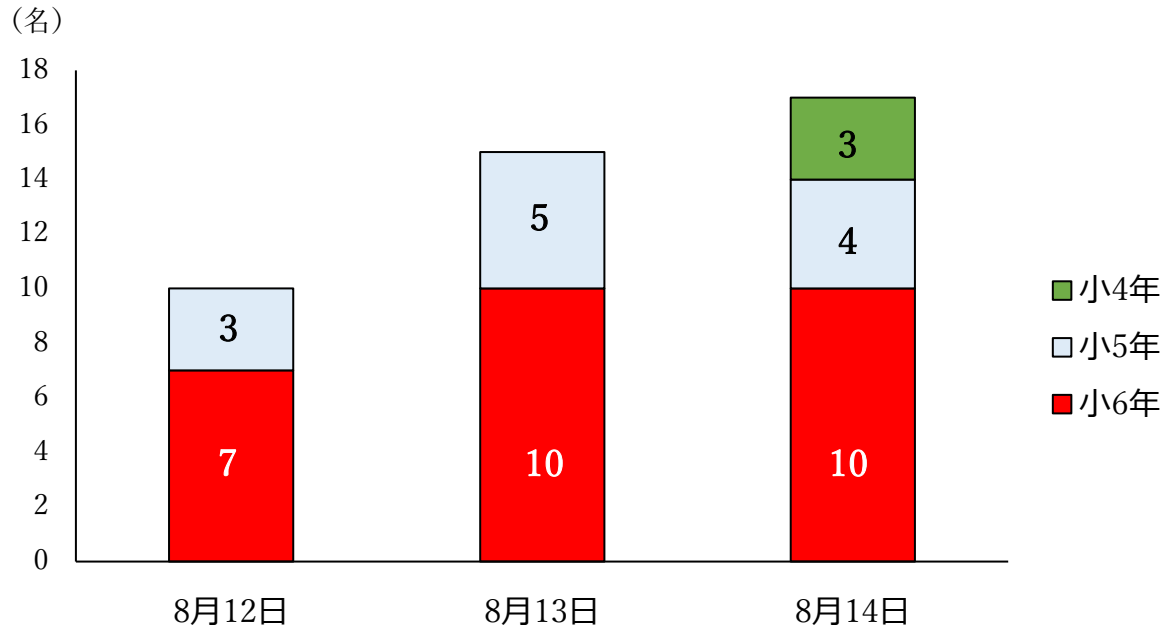
スポーツ外傷で最も多い足関節捻挫に備え、U 字パッドを小学生用に作成し準備しました。

【活動報告】

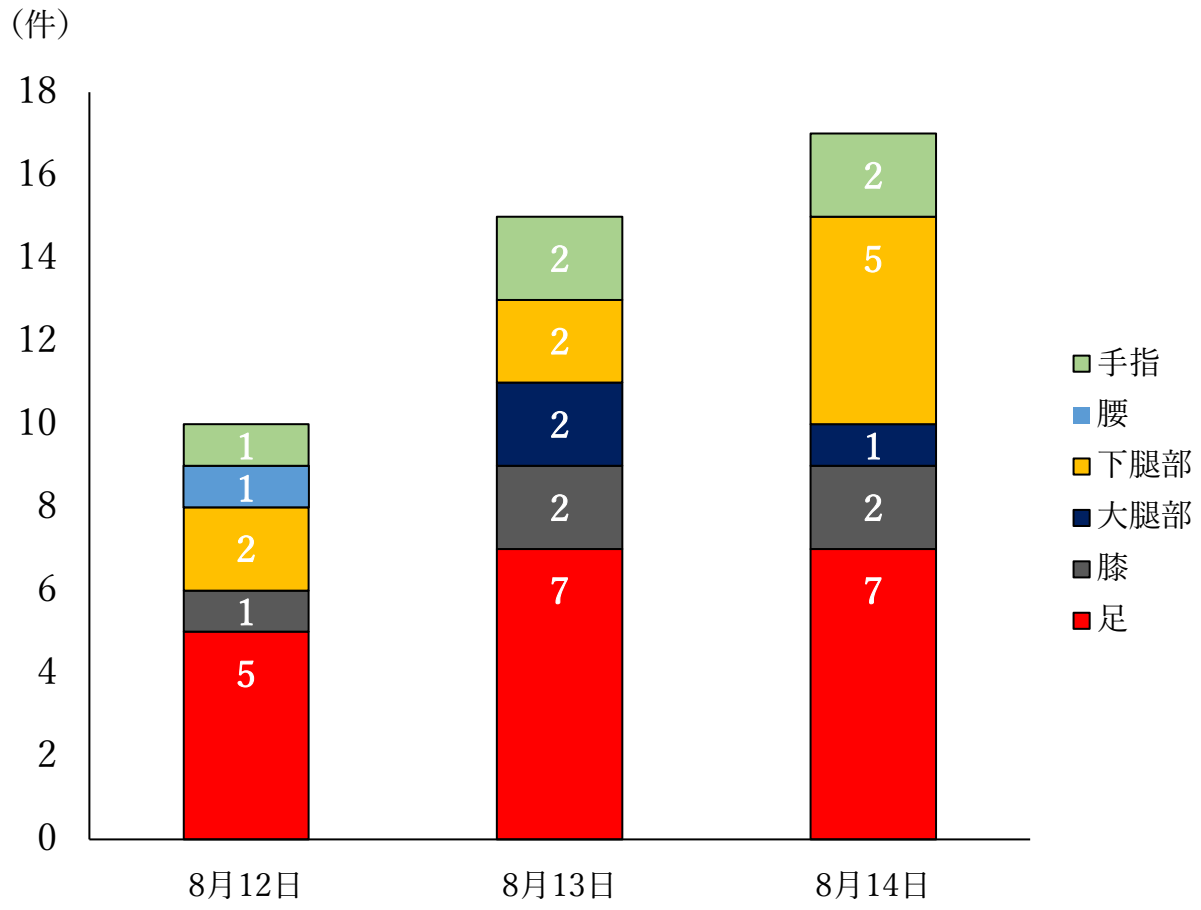
① 医務室での対応件数



② 学年別での対応件数



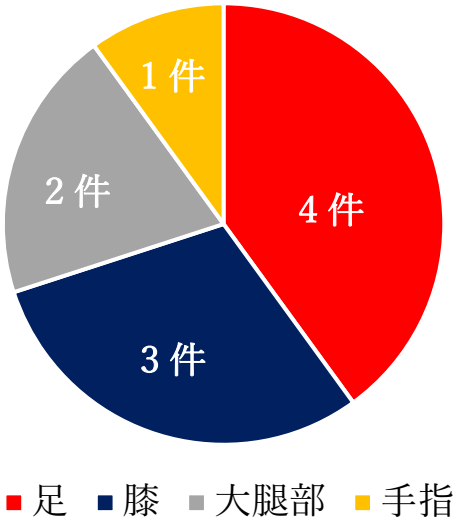
Ⅰ）　部位別の対応件数



大会の 2 日目、3 日目にかけて対応件数が増加していく傾向にありました。また、高学年選手の利用状況が高く予防的観点からも重要な情報であると感じました。

本大会では、足部に対応する件数が最も多く、足関節捻挫の予防に対するテーピング依頼が多くありました。大会 2 日目や 3 日目にかけて下腿筋痙攣に対するストレッチやテーピングを対応する件数が増加する傾向にあり、連戦の疲労が推測されたました。

Ⅱ）大会中に発生した急性外傷の内訳



急性外傷の内訳

- 足関節内反捻挫の疑い
- 膝関節打撲の疑い
- 大腿部打撲の疑い
- 小指 PIP 関節脱臼の疑い

本大会中に発生した急性外傷の内訳を図に示します。足関節内反捻挫疑いが最も多く、4 件全てが右側に発生していました。受傷機転は、ジャンプ着地の際に相手の足に乗ったケースが 1 件、ジャンプ着地時に失敗したケースが 2 件、選手同士の接触により受傷したケースが 1 件でした。医務室にてアイシングと圧迫、固定を行い翌日状態の確認を行いました。

次に選手同士の接触による膝関節や大腿部の打撲の発生が多くありました。アイシングと圧迫の処置を行い、翌日に状態の確認を行いました。

指の脱臼疑いの選手に関しては、テーピングで固定を行い大会本部と連携して医療機関へ受診していただきました。

【医務班の反省点】

人員については、今回 4 名体制で行いました。医務室を同時利用する選手の人数は、本大会では 3 名でした。しかし、試合中に発生した外傷に対して、コートに呼ばれることもあり今回の人員で十分対応できたと思います。今後は、大会の規模や試合数に応じて人員を決定していく必要性があると考えています。

今回は、医務室でどのような対応が可能なのか、事前に大会側へ伝えておくことでスムースな医務室運営ができたのではないかと感じました。また、選手や保護者の満足度を今後は調査して、より良い活動を提供できるよう努めたいと思います。

【医務班の活動でよかった点】

申し送りシートを作成しておことで、どういった症状の選手が来室し、翌日も医務室に来室するかどうかなどがスムースに行うことができました。また、足関節捻挫が発生した際にも、応急処置の道具を事前に準備しておくことで時間をかけることなく対応することが可能でした。また、指の脱臼が疑われた選手の対応については、大会本部と連携して円滑に病院受診まで行えたことは、医務班として非常に良かった点でした。

【今後の対応について】

今回の活動で良かった点や反省点をスタッフと共有し、今後新たな依頼があれば対応できるよう準備しておきます。また、外傷や障害予防の観点からは幼少期でも足関節捻挫が急性外傷や既往歴で受傷しているケースが多く、私たちも予防に対する重要性を再認識できました。同時に、幼少期から外傷や障害の予防に取り組んでいく必要性があるのではないかと感じました。今後は、メディカルチェックなどを行い、幼少期の時から予防の観点をもち今後の長い競技人生に少しでも力になりたいと思いました。

【資料に関する連絡先】
尾上　仁志
E-mail: satoshi-onoue@hiroshima-u.ac.jp
TEL　: 080-1991-8062
広島大学大学院医系科学研究科　スポーツリハビリテーション学研究室